

日本AI基盤モデル開発：国産「フィジカルAI」で世界に挑む連合艦隊

新会社の基本プロフィール



国内大手4社による戦略的連合
ソフトバンク、NEC、ソニー、
ホンダが各社「十数%」出資、
ソフトバンク幹部が社長で
2026年4月始動。



精鋭100人規模の開発体制
[STATISTIC] 100人
高度なAI開発技術者を集約し
スピードと品質を担保。



所在地は東京・渋谷
東京都渋谷区渋谷2丁目24番12号、
公的資金(NEDO)運動を視野。

ロードマップ：2026-2031



2026年：立ち上げとNEDO採択
4月会社設立、NEDO公募応募。
8月下旬契約締結、国家プロジェクト始動。



2029年：中間目標の達成
マルチモーダル認識と論理推論を実現。
「合成データ」の生成・供給基盤運用開始。



2031年：最終目標「実空間統合推論」
物理特性を含む情報の統合により、高価な自律制御
が可能な基盤モデルを完成、国内事業者へ広く提供。

SoftBank
(ソフトバンク)

- 計算基盤
- プライバシー保護技術



基礎モデル構築の主導・
データセンター運用

NEC

- ガバナンス
- 安全安心なAI運用



セキュリティ設計・
AIカードレールの構築

1兆パラメータ級エンジン
国内ゼロからの構築、PFNの知見活用



1兆パラメータ級エンジン
国内ゼロからの構築、PFNの知見活用

Sony Group
(ソニーグループ)

- センサー・画像処理
- ロボティクスR&D



映像・センサー情報の
マルチモーダル融合

Honda
(ホンダ)

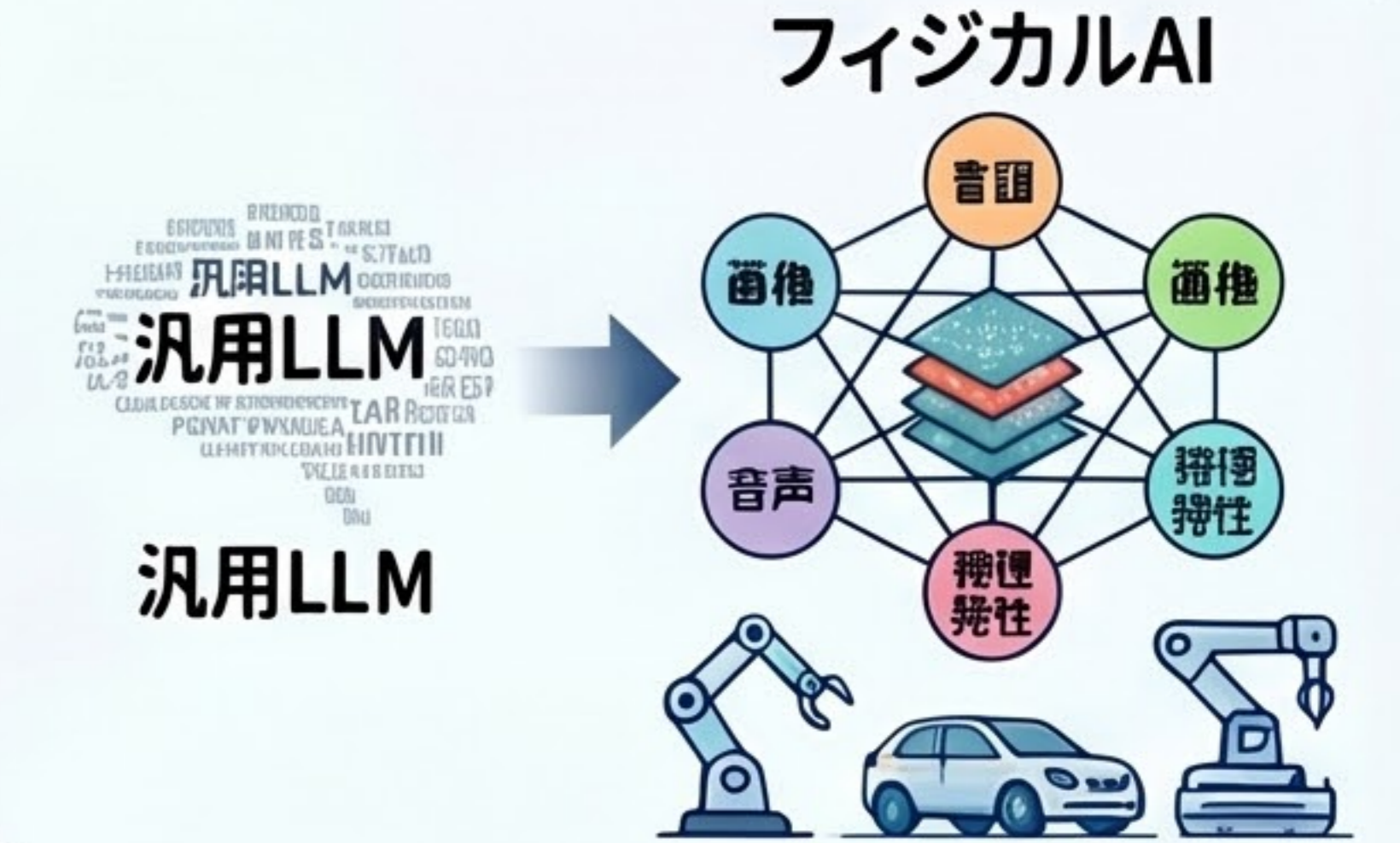
- 自動運転
- 実空間の走行・制御データ



実空間への実装・
安全要件

PFN
(開発参画)

技術戦略：フィジカルAIへの特化



クラウドとエッジの二層運用



成功への重要課題



計算資源(GPU)の安定調達
巨大モデル開発に不可欠なGPU
確保、電力・データセンター運用
の供給制約が重大リスク。



3層のデータガバナンス
公開、企業提供、耗層の3層に
分け、権利整理と漏洩保護を両
立させる設計が不可欠。



国内エコシステムの構築
特定企業の独占を避け、NEDOの
要請に基づき「学習済みモデル」
を国内事業者へ広く配布する戦略。